

大学の世界展開力強化事業（平成24年度採択）中間評価結果

| | |
|------|---------------------------------------|
| 大学名 | 慶應義塾大学 |
| 整理番号 | I-8 |
| 構想名 | アジアの新出課題解決に向けたエビデンスベースドアプローチ大学コンソーシアム |

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

| | |
|---|--|
| (総括評価) B | 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。 |
| (コメント) | |
| <p>本プログラムは、慶應義塾大学が ASEAN 8 カ国 11 大学と共にコンソーシアムを構築し、共同で学生を育てる仕組みである「EBA コース」の開発を特徴としている。相手大学それぞれの基礎的な教育に加え、慶應義塾大学で既に構築している遠隔会議システムを用いて、相手大学の特色を活かしながら共同で設計した科目を英語で開講している点や、ビデオアーカイブとテレビ会議を併用したデジタルコミュニケーション基盤を用いて、各大学の学生間で日常的に交流するオープンセミナーやフィールドワーク等によりプログラムを展開している点は評価できる。</p> <p>一方で、ASEAN の共通課題として掲げる「環境・エネルギー」、「健康・公衆衛生」、「防災・セキュリティ」の3分野における問題解決に向けた教育プログラムは、実践科目（インターシップ、フィールドワーク）が先行して共有授業を試行的に行っているが、単位認定は各大学が独自に判断し付与する段階である。今後、当初目的を達成するためには、相互に単位認定可能な科目にした上で科目数を増やし、質の向上を図る努力をしていくことが必要である。</p> <p>また、本プログラムの目的が、学内や相手大学との間でまだ十分に理解されていないように見受けられるため、目的と取組内容の共有化を図り、誰にでも理解できるような具体化や標準化を行うことが必要である。特に、各学年のカリキュラム内容や学部、修士の修了要件などを具体化し、明示する必要がある。</p> <p>中間評価までの交流学生数は、派遣・受入ともに数値目標を大きく下回る結果となっているため、各学年のカリキュラムを習得することによりどのようなスキルが向上し身に付くのか、EBA サートIFICATEの取得が今後のキャリアの中でどのように位置付けられるのか、学生にとってより具体的で分かりやすい情報の発信に努め、交流学生数の増加を図ることが必要である。</p> <p>慶應義塾大学の環境情報学は相手大学にはない優れた先端情報技術を有しており、ビッグデータを自在に活用できるスキルは、今後の国際社会で重要になってくると思われる。先端情報技術系科目を EBA 共通科目群の中でより重要な位置付けとし、教育プログラムの質の高さと保証を明確にしていくことが求められる。</p> | |